

おたがいさまの助け合いネットワーク

『おたすけねっと』の広がりで まちを元気に!

第3回『おたすけねっと』学習・交流会を開催 ～組合員と職員がともに交流「生協ってええね」～

『おたすけねっと』は、暮らしの中でのちょっとした困りごとを、医療生協の地域と事業所のネットワークを活かして、おたがいさまの助け合いで解決を目指すものです。

3月2日(土)、第3回おたすけねっと学習交流会を76名(組合員52名、職員24名)の参加で行いました。2018年度の取り組みのまとめと活動の報告、2019年度方針が提案され、グループ交流で深めました。

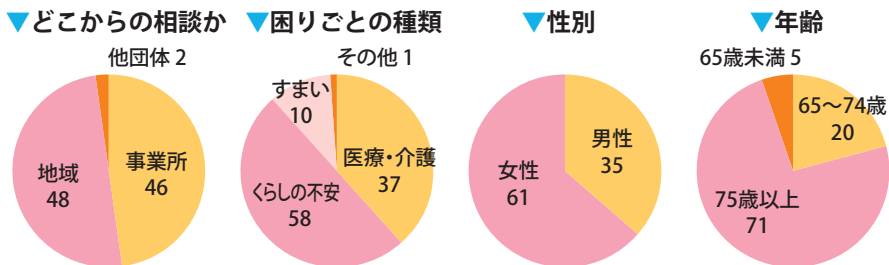


8つのグループに分かれて『わがグループのおたすけねっと』を話し合いました

●身近なところでの活動が広がりました

これまでに相談のあった困りごとは96事例。主な内容として暮らしの不安は50%を占め、「地域につながりがなく不安」「訪問しサロンなどお誘いをした」などでした。医療・介護の困りごとは「急な入院に着替えを届けた」「退院後で家事ができない方に食事を届けた」など。住まいの困りごとは、「ゴミ出しができない」や「網戸を外せない」などがありました。また、困っている方の74%が75歳以上の方でした。(グラフ参照)

2018年度の特徴は、グループづくりや『おたすけねっと』を考え合う場が、地域ごとの身近な単位で行われたことです。当日の報告や発言を紹介します。



●男性ボランティアグループで活躍の場を!

大宝東支部の最賀猛さんから、念願だった男性ボランティアグループ『男の宝箱』が結成されたことが報告されました。まずは自転車のパンク修理『りんりんクラブ』と、書類の書き方のお手伝い『役所手続きお助け隊』の活動が始まり、得意なことで支えあう、地域ごとの『男の宝箱』を作っていきたいと話されました。



●地域別「おたすけねっと会議」を3ヶ所で開催

6月から始まった川西ブロックの会議について、赤星支部の宇野廣子さんが、自分達が知りたいことの学習や事例の交流を行ったことなど報告されました。ご近所どうして認知症の方を支えていくことについて交流した時には、「地域ぐるみで見守っていくことが大切」と話しあったこと、今は支部ごとのつながりマップづくりを通して介護事業所など地域の資源を確認中で、「参加者一人ひとりが主体的に関わって地域での活動を広げていきたい」と話されました。

また、海部ブロックのとりにくみについて津島支部・川合薫乃さんから、地域のつながりの大切さが話されました。

高畑ブロックの会議については高畑生協診療所の城殿靖彦さんから『お

たすけねっと』は医療や介護の質を高め、地域の健康度を上げる活動。診療所もネットワークの1つとして貢献していきたい』と話されました。

『おたすけねっと』で相談した方がみるみる元気に!

当日参加された整形外科・木村和正医師から、関わった相談や『おたすけねっと』への想いが話されました。

▶整形外科の気になる患者さまを「地域のサロンやカフェへ誘ってほしい」と『おたすけねっと』に相談しています。支部から誘われてサロンに参加されるようになった方は、外来診療でお会いする度にみるみる元気になっています。また、男性の方は、サロンに馴染めず1回で行くことをやめてしまいましたが、今日、男性グループが活躍していることを知り、男性の居場所もできあがっていることを嬉しく思います。

連携推進では、開業医と病院との連携だけでなく、地域と連携することが重要と考え、地域とのネットワークがあることが安心をつくり上げています。医療生協は期待され、今こそ出番です!

●さらに「おたがいさま」の輪を広げよう! ～2019年度の取り組みの提案～

- 毎月第3火曜日に全体の会議を行っています。
- 地域別のボランティアグループや男性のおたすけグループづくりをすすめます。あなたの得意なことで力をお貸しください。
- 暮らしの「困った」が出しあえるサロンをさらに広げ、空き家を活用した「みんなの家」づくりにもとりくみます。
- 地域ごとに身近な困りごとを持ち寄り、おたがいさまの関係の中で組合員と職員と一緒に考え合う会をあちこちに開きます。困りごとがありましたら、まずはご相談ください。
- ひとりの困ったに寄り添うサポーターの養成講座を開催します。お近くの講座にぜひご参加ください。おたすけサポーター缶バッチ(100円)もつくりました。



▲サポーター缶バッチ



グループで話し合ったことを発表していました